

# 大学生等の依頼表現の変化

## －エレン・ナカミズ(1992)との比較から－

丸島歩 (北海学園大学)

### 1. はじめに

ナカミズ(1992)では日本語母語話者(大学生)と日本語学習者(留学生)の学校場面における日本語での依頼表現について調査を行っている。ナカミズ(1992)での主旨は非母語話者の表現を母語話者と比較することであったが、論文が発表されてからすでに30年近く経過しており、母語話者の言語使用に変化が起きている可能性があると考えた。本発表は現在の大学生等の依頼表現について行った調査結果を分析し、ナカミズ(1992)と比較したものである。

### 2. 方法

ナカミズ(1992)では依頼する相手を親しいクラスメート、親しくないクラスメート、親しい教員、親しくない教員の4パターン、計6場面を設定して調査を行っている。本研究ではまず、ナカミズ(1992)と同様の項目で数名の大学生を対象に予備調査を行った。その結果ナカミズ(1992)とは異なり、クラスメートに依頼する際にLINE等のコミュニケーションアプリを用いることが多いというコメントが得られた。

そこで、本調査では6場面のうちクラスメートを相手として設定をしている3場面を口頭の場合とLINE等の場合に分割し、計9場面で行うことにした。調査はオンラインアンケートサービスGoogle formを利用し、対象者は日本国内の大学・短期大学・専門学校に通う日本語母語話者とした。調査項目を下の表1にまとめる。なお、回答は全て自由記述とし、口頭場面については「直接会って頼む場合、どのような行動をしてどのように言うか、セリフも含めてできるだけ具体的に教えてください。」、LINE等で依頼する場面では「LINE, WeChat, KakaoTalk等を使って頼む場合、どのようなメッセージを送るか、できるだけ具体的に教えてください。絵文字を使う場合は文字化けのおそれがあるので、<sup>1</sup>(汗)<sup>2</sup>(笑顔)のように絵文字のあとにかっこ書きで絵文字の意味を添えてください。」のような説明を付した<sup>3</sup>。

表1:調査項目一覧

場面	質問項目	口頭/LINE等	同等/目上	親疎	頼みやすさ
場面①A	あなたは昨日気分が悪かったので、大学の講義を休みました。その講義のノートを親しい日本人のクラスメートに貸してもらおうように頼みたいと思っています。その時にあなたはどうしますか。	口頭	同等	親しい	頼みやすい
場面①B		LINE等			
場面②A	あなたは昨日気分が悪かったので、大学の講義を休みました。その講義のノートを親しくない日本人のクラスメートに貸してもらおうように頼みたいと思っています。その時にあなたはどうしますか。	口頭		親しくない	
場面②B		LINE等			
場面③	明日あなたは大学の授業で発表する予定でしたが、週末に友達があなたのところ遊びにきたため、発表の準備ができませんでした。そこで、発表の日を延期してもら	口頭	目上	親しくない	頼みにくい

<sup>1</sup> 実際には括弧の前に汗をかいていることを示す絵文字が表示されている。

<sup>2</sup> 実際には括弧の前に笑顔の絵文字が表示されている。

<sup>3</sup> ナカミズ(1992)では面接調査を行ったか調査紙で調査を行ったか、調査方法について明確な記載はない。本調査ではオンラインで行ったこともあり、あらかじめ詳細な指示が必要であると考え、このような説明を付すこととした。

	ように先生に頼みたいと思っています。その授業の先生はあなたとあまり親しくない日本人の先生です。その時にあなたは どうしますか。				
場面④	明日あなたは大学の授業で発表する予定でしたが、週末に友達があなたのところ遊びにきたため、発表の準備ができませんでした。そこで、発表の日を延期してもらうように先生に頼みたいと思っています。その授業の先生はあなたと親しくしている日本人の先生です。その時にあなたは どうしますか。	口頭		親しい	
場面⑤	大学のレポートを書くためにあなたの先生の部屋にある本を貸してもらうように先生に頼みたいと思っています。その先生はあなたと親しくしている日本人の先生です。その時にあなたは どうしますか。	口頭		親しい	頼みやすい
場面⑥A	あなたはひどい風邪をひき、2週間入院することになりました。少し前に旅行をした時、お金を使いすぎたので、今入院費を払うお金を持っていません。親しい大学の友達に5万円貸してもらうように頼みたいと思っています(1カ月後お金を返すと約束する)。その時にあなたは どうしますか。	口頭	同等	親しい	頼みにくい
場面⑥B		LINE等			

### 3. 結果

回答者は41名で、全員が日本人学生であった。そのうち39名は北海道の大学に通う大学生であった。

まず、願望表現の使用について比較したい。ナカミズ(1992)では依頼の際に目上相手に願望表現を用いることが多かったが、本調査では同等の者相手の場合の方が願望表現をよく用いる傾向があった(図1, 2)。また、ナカミズ(1992)では親しい教員に軽い依頼をする場合(場面5)で特に願望表現が多く使われており、依頼の内容が願望表現の使用に影響を与えていることが見受けられる。本調査では同等の相手でも親しい相手に願望表現を使う傾向があった。ただし頼みにくい内容(場面6)のLINE等での依頼の場合は願望表現が使われる傾向が少なかった。願望表現を使用するか否かの選択は、親疎や依頼内容だけでなく、依頼の方法にも影響を受けていることがわかる。

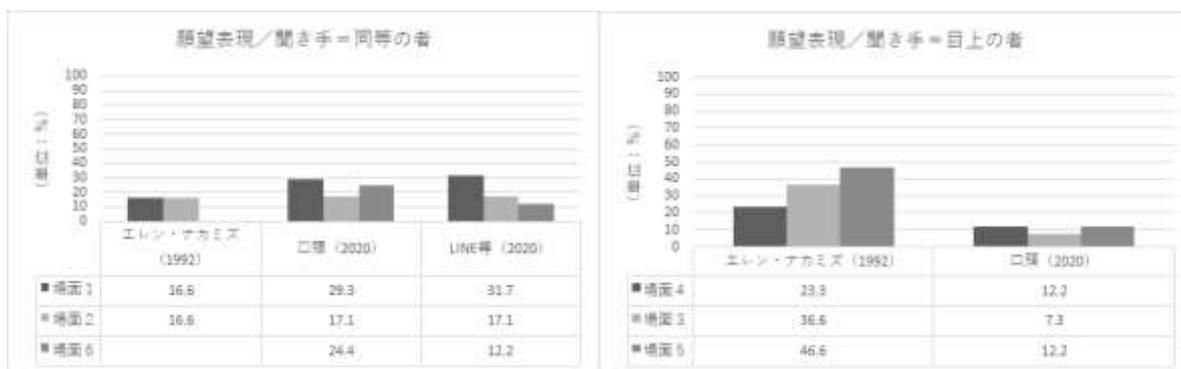


図1：願望表現／聞き手＝同等の者

図2：願望表現／聞き手＝目上の者

次に、「クレナイ」形と「モラエナイ」形、常体と丁寧体の使用状況を見ることとする。ナカミズ(1992)同様、本調査でも親しくないクラスメート(場面2)や頼みにくい依頼(場面6)では「くれない」より「もらえない」を使う割合が高くなった。この割合には口頭かLINEのようなテキストベースでの依頼かはあまり影響がないと思われる(図3~8)。ただし、重い依頼(場面6)においてはLINE等では「くれない」の割合がやや高くなっている。ナカミズ(1992)では親しいクラスメ

ートには常に常体を用いるが、本調査ではクラスメートでも丁寧体を使うケースが見られた。口頭より LINE 等での場合に、親しいクラスメートより親しくないクラスメートの場合に、軽い依頼より重い依頼の場合に、それぞれ丁寧体が用いられる割合が高くなっている。

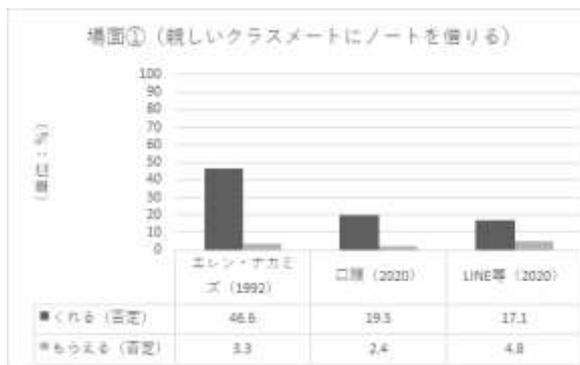


図3: 「くれる」「もらえる」の否定形(場面①)

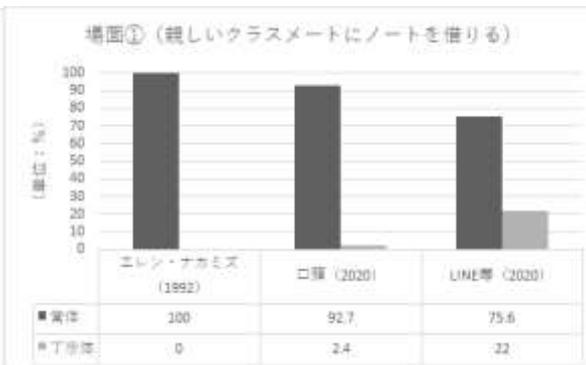


図4: 「常体」「丁寧体」(場面①)

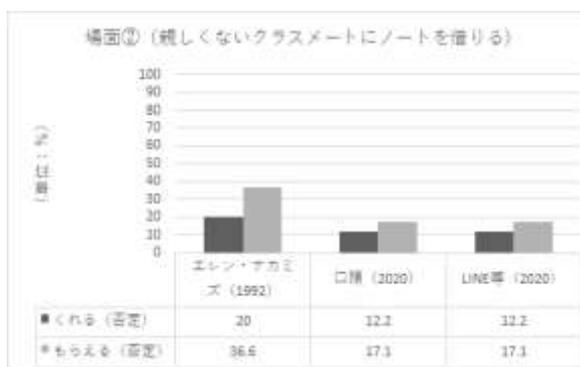


図5: 「くれる」「もらえる」の否定形(場面②)

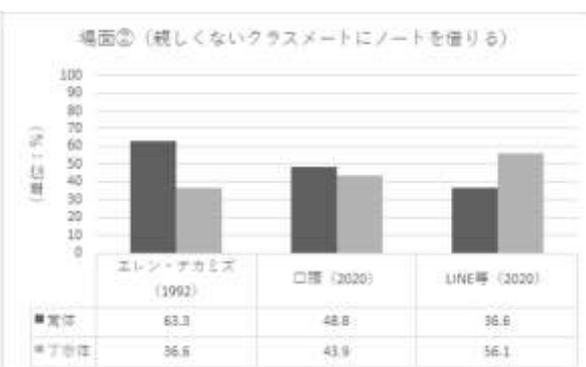


図6: 「常体」「丁寧体」(場面②)

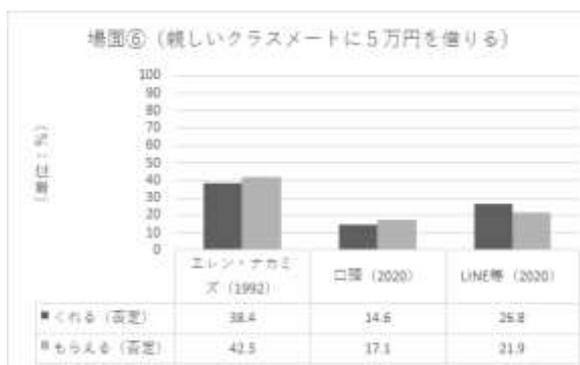


図7: 「くれる」「もらえる」の否定形(場面③)

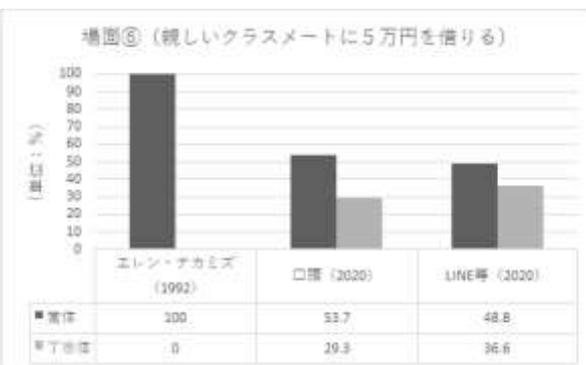


図8: 「常体」「丁寧体」(場面③)

次に、ぼかし表現についての比較を行う。ナカミズ(1992)ではクラスメートに依頼をする場合にぼかし表現の「(か)なあ」「(か)しら」を使うケースが多かったが、本調査では少なかった(図9)。特に「(か)しら」は全く観察されなかった。ナカミズ(1992)では親しくないクラスメート(場面2)や重い依頼(場面6)で特によく使われる傾向があり、頼みにくい場合にぼかし表現が多用されると結論付けている。本調査では口頭では同様の傾向が見られるが、LINE等では親しくないクラスメート(場面2)での使用頻度は低く、単純に頼みやすさと関連しているわけではないと考えられる。本調査では「～(もらえ)たりする?」「～ことってできる/可能?」など、ナカミズ(2020)とは異なるぼかし表現が散見された。

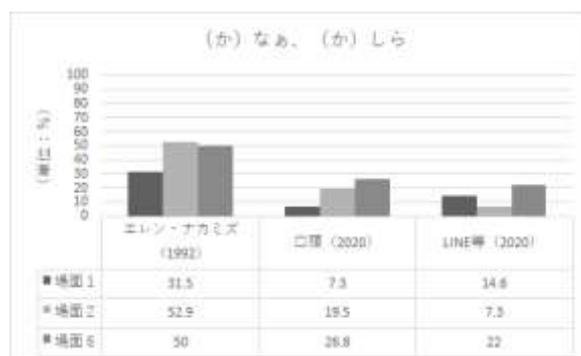


図9：「(か)なあ」「(か)しら」

#### 4. 考察・まとめ

ナカミズ(1992)と比較すると、まず大きく異なる点は親しいクラスメートに対する丁寧体の使用の有無である。ナカミズ(1992)では親しいクラスメートに対しては、全く丁寧体がい用いられていない。これに対し2020年の本調査では、親しいクラスメートであっても丁寧体がい用いられる場合があった。特に頼みにくい依頼については30～40%ほどが丁寧体を用いるという結果が得られた。また、頼みやすい依頼であっても多くはないものの丁寧体を用いるという回答があった。そして、口頭よりLINE等で依頼した場合により丁寧体がい用いられやすい傾向が見られた。これは音声言語と文字言語の違いであり、文字言語のほうがより丁寧な表現が好まれるためだと推測できる。LINEのような文字言語で即時的に多彩なやり取りができるツールは、1992年の時点では普及していなかった。このようなメッセージングアプリの登場で、大学生の言語生活も大きく変化したと言えるだろう。

丁寧体の使用については、親しくないクラスメートであってもナカミズ(1992)より本調査のほうが、その割合が高かった。特にLINEでの依頼では、半数以上が丁寧体を用いると回答した。口頭でのコミュニケーションに限って比較しても、より丁寧な依頼が好まれるようになったと推測できる。

また、依頼の形式は本調査とナカミズ(1992)では大きく異なった。ナカミズ(1992)では「～タイ」「～テホシイ」などの願望表現が現れる割合が高かったが、本調査では願望表現の出現は少なかった。また、ナカミズ(1992)では目上相手に願望表現がい用いられるケースが多いが、本調査では同等の者相手に用いられる場合のほうが、その割合が高かった。

さらにナカミズ(1992)では親疎や依頼の重さが「クレナイ」と「モラエナイ」の区別で説明できる部分が大きかったが、本調査ではそもそも「クレナイ」「モラエナイ」を用いた割合がそれほど多くなかった。「モラエナイ」については、相手が親しくない場合や重い依頼など、頼みにくい場面で用いられやすいという傾向は比較的一致している。本調査では多数派を占める表現が現れづらく、依頼表現のバリエーションがより豊富になっていると考えられる。

ナカミズ(1992)では、ぼかし表現として「(か)なあ」「(か)しら」が挙げられていたが、本調査では「(か)しら」は全く出現しなかった。「(か)なあ」の出現も多くなかった。ほかのぼかし表現としては「～(もらえ)たりする?」「～ことってできる/可能?」等、ナカミズ(1992)で言及されていない形が散見された。

以上のように、ナカミズ(1992)と本調査の結果の間にはさまざまな相違点が観察された。この30年近くの間でモバイルデバイスが普及したこともあり、そもそも若年層のコミュニケーションの方略は大きく変化していると考えられる。しかし、地域差の影響がある可能性も考慮しなければならないだろう。現在の若年層の依頼表現にどのような地域差があるかについて、依頼表現以外の言語表現の変化については今後の課題としたい。

**謝辞** 本調査は、発表者が北海学園大学で担当する人文学部日本文化学科3年生対象のゼミナール「日本文化専門演習Ⅰ」内で調査項目の検討を行った。大学生の言語行動について積極的に意見を述べてくれたり、回答の呼びかけを行ってくれたりしたゼミ生達に感謝を述べたい。

#### 参考文献

エレン・ナカミズ(1992). 日本語学習者における依頼表現—ストラテジーの使い分けを中心として— 待兼山論叢 日本学 篇, 26, 49-69.